



第333号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



感動いっぱい



カット：本多紘子

秋も深まり、村の神社の秋祭りが始まるころです。朝夕はめっきりと涼しくなり肌寒ささえ感じる今日この頃、皆様お元気ですか。

愚僧もこの10月号の原稿を9月23日のお彼岸の中日の夜に、昼間のお参りの疲れで眠い目をこすりながら書いています。お寺の庭にも曼珠沙華の花が真っ赤に咲き、その花の下で虫たちは秋の夜長を楽しみかのように精一杯鳴いています。愚僧は原稿が書けずに四苦八苦して泣いている状態です。

8月30日に将棋の八大タイトルの一つ「第58期王位戦」で対戦成績4勝1敗で、25歳の岡山県出身の菅井竜也7段が46歳の羽生善治王位を破り、初のタイトルを手にしたのは立派でした。岡山県出身棋士によるタイトル戦出場は故大山康晴15世名人以来27年ぶりだったので、恩師や地元関係者の喜びはひとしおで、将棋熱の高まりが期待されています。小学二年から「子供将棋教室」に通い、負けると泣いて悔しがり、自宅に帰ると研究熱心でひたすら努力したそうですが、強い相手を求めて将棋し、誰よりも涙を流した結果だから凄いですね。

泣くといえ、陸上男子1000mで桐生祥秀選手が、4年前に17歳の高校生ながら10秒01の好タイムで脚光を浴び、走るたびに9秒台を

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

期待される重圧の中で、今夏のロンドン世界選手権出場の日本代表枠三名を決める決勝で4位となり、大泣きに泣きました。失意の中で立ち上がり、9月9日の日本学生対抗選手権1000m決勝では9秒98の日本新記録を出し、日本人初の9秒台突入と成り、何度も飛び跳ねて喜びを爆発させたのは、辛く苦しい期間が長かったからです。

8月にあつた陸上のロンドン世界選手権の1000mで3位となり、約10年にわたって世界最速を窮めた31歳のジャマイカの英雄、フサイン・ボルトが引退を決めたのは寂しいことです。速く走る秘訣は、全てはトレーニングだと言い、『才能のある人の中で一番努力した人が頂点に立つんだ』とコーチにも言われ、何があっても自分を追い込んで努力した結果だと語りました。自分にあつた正しいトレーニングを信じて、努力を続けることは本当に難しいことです。

中国の善導大師の『観經四帖疏』に「二河譬」と云って、行者の進む道の前に突然、火の河と水の河が現れて中間に長さ百歩、幅15cmの白い道があり、後ろから猛獣や刀を持った盗賊が追いかけてくる。前に進むにも火炎と大きな水の波で道を渡れそうにない。後ろに引き返せば猛獣や盗賊に殺されてしまう。真実の道を歩み始めた行者は、前に向かうも死、止まっても死、後ろに引き返しても死という「三定死」に追い込まれますが、自分を信じ、仏様の「前へ進め」という言葉を信じて白道を進み救われたという譬えです。人も生まれた以上は死から逃れられません。あなたは何のためにこの世に生まれ、人として生きたことに満足して死ねますか、という問でもあるのです。

故相田みつをさんが「この世は わたしがわたしになるところ あなたがあなたになるところ」と書いていますが、どんな人生の苦難も壁も、自分が自分になるために、どうしても通らなければならなかった道として受け止めたのです。雨の日には雨の中を 風の日には風の中を「生きるしかないのです。涙いっぱい、感動いっぱいの人を生を歩むためにも、仏教を真剣に学ぼうよ。合掌 (奥原 曇龍)」

『人生は苦難の道が当たり前 涙いっぱい感動いっぱい』 どんりゆう



カット：奥原 唯

ともしび説法

日時・十月二十五日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで
十一月 三日「金曜日」 午前十時半から午後四時まで
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



お釈迦様ものがたり ⑫

お釈迦様の生母マーヤー(摩耶)夫人は、お産のために故郷コーリヤの天臂城に帰る途中、ルンビニー園で休憩中に突然産気づき、お産の設備のないまま出産し、充分な手当もできないまま、カピラ城に引き返すという無理がたたり、七日目に世を去られました。

お釈迦様は生まれて直ぐに生母と死別し、やがて母親の末妹であるマハーパジャパティ(摩訶波闍波提)が継母となり、王子を養育されました。新しい夫人は、まだ若かったけれど、大切に慈しみ育てられました。十数年後には、弟のナンダ(難陀)が生まれますが物心つくまでは家族的な愛情に恵まれ、物質生活にも何不自由はありませんでした。

当時のインドでは、上流階級では七、八歳になると、バラモン(司祭)の学者のところへ、ヴェーダなどの学問を学ぶことが、一般の風習になっていました。釈迦国は、文化の中心を離れた辺鄙な土地ではあったが、何らかの教育施設をもっていたようです。後にコーサラ国の王子が、学問武芸の修行のために釈迦国に来て、数年または十数年を過ごしたとせられています。王子であったお釈迦様は教師を王宮に招いて、ヴェーダなどのあらゆる学問を学んでいます。

お釈迦様は若いころから、虚弱な体質のせいか、武芸より沈思黙考を好む性格であり、ある考えが浮かぶと、それを解決し終わるまで徹底的に追求していました。したがって学問研究についても、人生観においても、いろいろな疑問に対して、それを解決すべく、思いに沈むことが多かったようです。

また、生母がいらないということも、沈みがちな王子の性格を助長します。父母はこのような王子を見ると、世をはかなんで出家するかもしれないと心配し、世俗的に偉大な国王となつて貰うことを願って、王子を結婚させることにしたようです。合掌 (奥原豊龍)

赤とんぼ家族そろって西へ飛ぶ 川も燃えるよ夕陽のともしび 田辺多恵子



9月ともしび説法

ともしび法話

秋空高く風そよぐ季節です。スポーツの秋、読書の秋ですが皆様お元気ですか。

お寺でも十月の第二・第四金曜日の二時から「楽々のびのび体操」を再開します。無理をせずに身体をみんなで楽しくゆつくりと動かします。気楽に参加して下さい。心光寺坊主(ぼうもり) 奥原 博子

妻に似し後姿や夏帽子
ちちろ鳴く吾が八十のたそがれに
健やかに朝の目覚めの爽やかに
倉敷市茶屋町 白土 浩一

蜘蛛の糸挿んでみても昇れない
棚経の僧をもてなす温度下げ
健康の知識なら余るほどあれど
明日は忘れていつもの暮らし
倉敷市茶屋町 真壁 佳子

秋風に誘われ参る心光寺
山門くぐれば彼岸花咲く
年取ればじんわりあたたか寺の風
柿も実りて頭を下げる
倉敷市中島 山田 孝治

ともしび説法

日時・十月二十五日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで
十一月 三日「金曜日」 午前十時半から午後四時まで
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定
十一月 三日(金)・午前十時半から午後四時・早高の本堂。
秋の報恩講法要 午前・音楽演奏 午後・法要儀式・講演等。
十二月二十一日(木)・午後一時から午後四時・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。
ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)

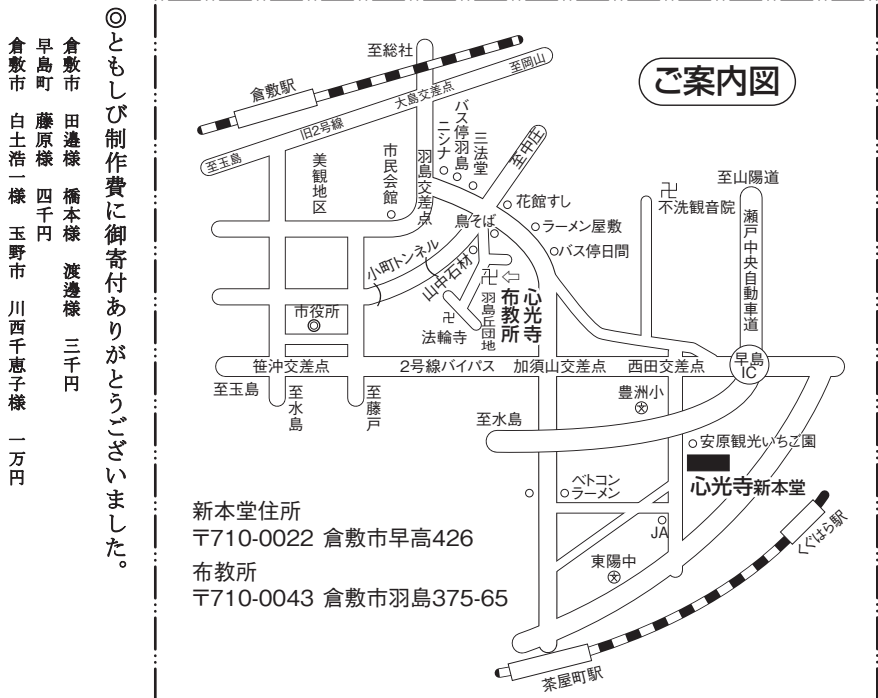


こころの詩

赤とんぼの大群が土手で舞う
夕焼け空に溶け込んで
幸せそうに飛んでいる
なにも求めず 風まかせ
死にゆくことを 恐れず
今を ひたすら生きる
草木も大地も 光る 光る



カット:吉岡美枝



浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「333号」となりました。心光寺は人生に疲れたり迷ったとき、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。10月のともしび説法の日には、茶屋町駅西口に12時35分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡下さい。合掌 総代長 三村健